

筑西 で暮らす



筑西で生まれた心のゆとり

いたくら たまみ
板倉 珠美さん(門井)

千葉県流山市から令和4年11月に移住



地方移住への関心が高まる中、市では移住支援制度に力を入れています。今回、本市に移住した2組に、移住した感想や生活の様子を聞きました。移住支援制度など、詳しくはホームページをご覧ください。

【問】地方創生課(本庁4階) ☎22・0500



経済的支援がうれしい

市内で働く板倉珠美さんは、夫の照賢さんと中学生、小学生のお子さんの家族4人で移住しました。「昔から緑豊かな場所で暮らすことに憧れがあり、条件にあった物件を見つけたので即決しました」と珠美さんは当時を振り返ります。以前の家は敷地が狭く、家同士の間隔も近いことからなるべく静かに暮らす必要があったそうです。「今は庭もあり、のびのびと過ごせていて、移住して良かったと思います。また、住宅取得奨励金を利用させていただき、家計が大変助かりました」と移住した感想を話してくれました。

移住して気持ち前向きに

「以前は生活にお金がかかり経済的負担が大きく、常に心の余裕がありませんでした。移住し収入は変動しましたが、贅沢しなくても豊かな暮らしができるため心にゆとりがで

き、その分夫婦仲も深まりました」と、今の生活を楽しむ様子が伺えました。照賢さんも以前より積極的にお子さんとの時間を過ごすようになり、家族の時間が増えたそうです。

「子どものテストの点数が良くなるでも、前の自分は怒っていたところを今は笑いとばせるくらい、気持ちが明るくなりました」と心の変化を笑顔で教えてくれました。

住み心地100点のまち

「私にとって筑西市は、心豊かに暮らせるまち。買い物も困らず、住み心地100点の場所だと思います」と話す珠美さん。今後も家族で笑顔あふれる穏やかな生活を送ります。

移住支援制度

若者・子育て世代 住宅取得奨励金

対象 市内に住宅を取得した人(条件あり)

支給額(二世帯)
市内在住の人 40万円
市外からの転入 50万円



理想の暮らしが実現できる場所

さかもと かずあき まきこ
坂本 和昭さん・牧子さん (野殿)

東京都足立区から令和4年9月に移住

移住の決め手は 雰囲気の良い

「東京の自宅から、仕事でつくば市に片道1時間半かけて向かう生活を20年続けていました。つくば市周辺の移住を考え家を探し、今の家を見学した際に近所に住むおばあちゃんに話しかけられ、優しくてあたたかい雰囲気のところだと思い移住を決めました」と話すのは、坂本和昭さん・牧子さん夫妻。現在、和昭さんはテレワーク、牧子さんは介護士として市内のデイサービス施設で働いています。「移住するにあたり家具を買い替えたかったので、移住支援金制度の存在も後押しとなりました」と、支援の重要性を話してくれました。

思う存分趣味を楽しめる

「同じ値段でも、東京では敷地の面積が狭くても、筑西だと庭つきの広い家に住めるので、理想の暮らしができても満足しています。騒音に気を遣ってきたこれまでの環境と違い、今は思う存分趣味のDIYに打ち込めます」と和昭さん。夫婦でバーカウンターやウッドデッキを作り、筑西市での生活を楽しんでいるそうです。

四季折々の風景に感動

筑西市のお気に入りは自然の風景。「移住して一年半経った今でも、田んぼが一面に広がる風景を見ると感動し見とれてしまいます。桜や蕎麦の花、稲穂など四季折々の変化もすばらしいですね。筑西に来てから植物に興味を持つようになり、いつの間にか部屋に飾るようになりました」と2人は笑顔で話します。

筑西は、快適に暮らせる田舎

「食べ物も美味しいし、なにより人が穏やかで優しい。病院やスーパーもあるの、快適に暮らせる田舎と感じます」と牧子さん。「筑西は大人の遊びができる場所。暮らすには最高のまちだと思います。今後は、自宅に人が集まって交流できる場を作りたいですね」と話す坂本さん夫妻の目には、筑西で過ごす充実した未来が浮かんでいました。

移住支援制度

移住支援金

対象 東京23区在住・
在勤の人(条件あり)

世帯での移住
100万円

支給額
単身での移住
60万円